

伊豫 美樹子さん (49歳)

宮農地: 八女市黒木町  
主な農産物: イチゴ



## 家族や地域の支えがあって、農業は楽しい!

### ● 就農のきっかけ

### 就農、それは突然の出来事

地元で会社員として働いていた伊豫さん。生まれてからずっと実家で生活し、就農前からハウスの開閉やパック詰めなどを手伝っていました。10年ほどひとりでイチゴ栽培を続けてきた母親の姿を見ていたので、農業には何の抵抗もなく、「女性の自分にもできそうかな」と感じていたそうです。

結婚から数年後、夫とも「将来は、夫婦で就農をしよう」と話し合っていた矢先、2人目のお子さんが生後まだ4ヶ月の頃、家庭の事情により突然就農することになります。

夫は、仕事の都合で半年間は農業と仕事のかけもちの毎日。伊豫さんは「今考えると夫も私も若かったなあ。でも、夫が農業をやろうとしっかり決断してくれたことが、うれしかった。」と話してくれました。

### ● 私の今～就農後の道のり～

### 家族、そして地域の人たちの支え

農作業の手伝い程度はしていたものの、実際に就農してみると大違い。分からないことと戸惑いの連続。栽培技術は両親や近所の生産者の方たちに教わりながら、試行錯誤だったそうです。4、5年前まで「イチゴ+ガーベラ」の経営をしており、繁忙期のピークには、朝4時からイチゴを収穫し、睡眠が3時間のことも。

「そういえば、妊娠8ヶ月ぐらいの時にハウスのビニール張りを手伝って、周りの人に止められたこともあったかな。毎日が、農作業と子育てにフル回転だったそうです。」

大変だったでしょうとお尋ねすると「農業経営にやっと自信が持てるようになったのは、就農して10年ぐらいたってからかな。今だから笑って話せるけど、失敗もいろいろあったのよ。栽培のことや子育てとか、家族や地域の人に支えられて、ここまでやってこれたと思う。」と振り返ります。

「私は、農業は楽しいと思うよ。自分が頑張っただけ、収穫できるし。何よりも子供たちに両親が働いている姿を見せられたことは、とても幸せなことだと思う。」と笑顔で話してくれました。

### ● これからの夢、目標

### いいイチゴをしっかりと育てて、 たくさんの人に出会いたい

「イチゴの栽培面積を増やしていくことは難しいので、収量を増やしたいですね。あとは、やっぱりイチゴをつくっているのだから、『伊豫さんこのイチゴはおいしか』と言ってもらえることが一番ですね。」と語ってくれました。

「もうひとつ、子育ても一段落したので、いろいろなところに出かけて行きたいですね。いろんな人と出会って話すと、なんだか元気になれる、目の前が明るくなるような気がするのよ。」と伊豫さん。

パートナーはどんな方ですかとお尋ねしたところ、「おおらかな人。ああ見えてとても人付き合いが広く社交的なんですよ。今まで夫には本当に助けてもらいました。これからも、夫や家族と一緒に頑張っていきたいですね。」とちょっと照れながら話してくれました。



### プロフィール

- 家族構成 / 本人、夫、父、母、子
- 営農年数 / 約20年
- 耕作(経営)面積 / 0.37ha
- 販路 / JA 共販、

### 就農を考えている女性へ ♡

夫婦で、一緒に始めるなら、作業から経営まで2人でやっていくこと。我が家は夫婦で講習会に出席することも多いんですよ。考え方・やり方はいろいろあるので、正解はなかなか分からないけど、お互い話し合いつつ納得してやっていくことが大事。きちんと自分の思っていることを話すこと、思ったことはその時に解決すること。ひとりでよくよく考えること、ため込むことはよくないと思います。